

■ 学校の共通目標

| | | | | | |
|-------|----|--|------|---|------|
| 授業づくり | 重点 | 各授業において、論理的な思考力を高めるような活動を重視し、児童のプログラミング的思考を引き出せるようにする。また、思考の過程を明らかにし、他者に伝えるためによりよく表現する活動を研究していくことで、児童の深い学びへとつながるようにする。 | 中間評価 | 校内研究での研究授業の成果として、児童の論理的思考力を高めていくためのプロセスを設定して、それを検証していくことができたことが挙げられる。今後は表現力をどのように高めていくかという検証を授業に継続して、児童の深い学びにつながるようにしていく。 | 最終評価 |
| | | 愛日スタンダード等を基にして、全学年統一した学習規律の徹底とhyper-QUの活用等による児童理解をすすめ、自己決定の場の確保や自己肯定感をもたせる学習環境を整える。 | | hyper-QUの結果をもとに、外部講師を研修会に招聘し、学級の状況や児童の状態を読み取り、講師からの提案事項も全教職員で共有した。児童理解や学級経営、授業に活用できた。また、学習規律の徹底は生活指導と連携しながら継続して行う。 | |
| 環境づくり | | | | | |

■ 学年の取組み内容

| 学年 | 教科 | 学習状況の分析（10月） | 課題（10月） | 改善のための取組み（10月） | 最終評価（2月） | |
|----|----|--|--|--|---|----------|
| 1 | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 学 読書を好み、言葉や物語への関心が高い。意欲的に課題に取り組み、発言も活発な児童が多い 学 ひらがなや漢字の書き順や字形の習熟や、拗音や促音、「てにをは」などの使い分けが、なかなか定着しない児童がいる。 学 話を集中して最後までしっかり聞く力に欠ける児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 正しい書き順や整った字形を書こうとする意欲が低く、文章の書き間違えなども多い。 話を聞く際、気持ちがそれてしまったり、手遊びをしてしまったりする姿が多く見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 書き順や字形を正しく書くように、ドリルやノートなどの練習の際には、机間指導などで教師が確認し、その都度指導をしていく。短文作りや添削などの機会を増やし、正しい文の書き方を繰り返し指導していく。 話を聞く際、常に話者に視線を向ける、手は動かさないなどの指導を徹底していく。 | | |
| | 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 学 たし算・ひき算の計算も、ほとんどの児童が理解・処理ができるが、ケアレスミスや、問題のやり方がわからないなどが見られる。 | <ul style="list-style-type: none"> 繰り上がり、繰り下がりの計算になり、理解力や計算速度に関し、児童の能力差が出てきている。 | <ul style="list-style-type: none"> 練習問題の難易度や、問題量などに幅をもたせて個別対応ができるようにする。いろいろな問題に慣れさせるような教材を工夫する。 | | |
| 学年 | 教科 | 学習状況の分析（4月） | 課題（4月） | 改善のための取組み（4月） | 中間評価・追加する取組み（10月） | 最終評価（2月） |
| 2 | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 学 音読作品の暗唱に意欲的に取り組んでいる。その効果もあり、教科書にある文章の音読に時間を要しない。 | <ul style="list-style-type: none"> 漢字のレベルが1年生時に比べて上がり、画数が多いために筆順を覚えるのに苦労している。 同音漢字を意味に合わせて使うことに課題がある。 | <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習の際、全体指導を徹底し、反復練習を行う。 文作りの際に、同音の漢字について触れ、それぞれの意味について伝えるようにする。 | <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を早めに学習し終え、テストを繰り返し行うなど、定着を目指し取り組んできた。作文などには必ず既習した漢字は使うよう指導していく。 | |
| | 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 学 基礎・基本の学習が定着している児童が多い。意欲的に課題に取り組んでおり、分からないときは、質問をして理解し、次に進もうとしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 単純に答えを発表できる児童がほとんどだが、自分の考えを言う場面となると尻込みしてしまう児童もいる。 | <ul style="list-style-type: none"> 考えや意見をまとめる時間を与えたり、近くの児童と意見交換する場面を与えたりして自信をもたせ、発表する意欲につなげるように指導を進めていく。 | <ul style="list-style-type: none"> 話し合い、学び合い活動に適した授業の際、ペアや集団学習を積極的に取り入れ、発表意欲及び技術の向上につなげることができている。 | |
| 3 | 国語 | <ul style="list-style-type: none"> 調 漢字の読み書きについては、目標値を上回っていたが、「書く」領域については、平均並みであった。 学 話すことに対して意欲的な児童がいる一方、話の中心に気を付けて聞くことが課題である。 学 新出漢字に興味をもって学習しているが、送りがなや同音異義語の間違ひが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 話の中心を捉えて聞いたり、質問や感想を述べたりすることが苦手な児童が多い。 漢字にはとても興味をもって意欲的に学習しているが、正確で丁寧な字を書くことへの意識が低い。 | <ul style="list-style-type: none"> 常に聞くことを意識させ、友達の見聞をもう一度繰り返させたり、感想を述べさせたりする活動を継続して行う。 正確で丁寧な字を書くよう、繰り返し指導して定着を図る。 | <ul style="list-style-type: none"> 聞くことへの意識は高まっているが、できている児童とできていない児童に分かれてきている。友達の見聞を踏まえたうえで、自分の考えや意見に対する感想を述べられるよう指導していく。 全体的に丁寧な書字はできるようになってきた。送りがなや同音異義語に注意してドリル学習、漢字テストに取り組ませている。 | |
| | 算数 | <ul style="list-style-type: none"> 調 数学的思考力については、目標値を大きく上回ったが、長さ、かさの単元に苦手意識がみられる。 学 基礎・基本が定着している児童が多いが、単純な計算ミスが多い。 学 自分の考えをまとめたり、説明したりすることに苦手意識をもっている児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ほとんどの児童が正確に計算できるが、計算ミスを繰り返す児童が何人かいる。 単純な発問には手を挙げて答えるが、自分の考えをまとめて発表することが苦手な児童が多い。 単位を書き忘れたり、間違えたりする児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 朝学習などの時間も活用し、正確に計算できるよう指導する。 発表前に隣同士やグループで話し合っって考えをまとめ、自信をもって発言できるよう工夫する。 単位への意識を高めるよう繰り返し指導する。 | <ul style="list-style-type: none"> 正確に計算することができる児童は増えている。 既習事項を基に発言をする児童が増えてきているので、隣同士やグループで話し合う活動を取り入れながら、より多くの児童が発言できるよう工夫する。 文章を読み、内容を理解しながら問題に取り組むことで、単位の書き忘れが起きないように指導していく。 | |

| | | | | | |
|---|----|--|---|--|--|
| 4 | 国語 | <p>調 全領域で目標値を大きく上回っていたものの、「書く」単元だけは、少し数値が低めであった。</p> <p>学 書くことに対して意欲的な児童がいる一方、苦手意識をもつ児童も多くなる。</p> <p>学 読むことに対して、意欲的に取り組む。自ら問いを立てて、場面や登場人物の心情の変化を捉えることができるようになってきている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 覚える漢字が増え、漢字の定着度に個人差が見られる。特に画数の多い漢字で間違いが多い。 丁寧に字を書くことや、文章を書くことに対して苦手な児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 繰り返し学習する機会を作り、1文字ずつ丁寧に学習し、定着を図っていく。 感想や意見を書くなど、自らの考え等を短文にまとめる練習を行う。 | <ul style="list-style-type: none"> 既習の漢字が増えてきたことにより、形が似ている漢字や同音の漢字などの間違いが増えている。漢字のもつ意味もきちんと指導していくようにする。 感想や意見を書くことに意欲的に取り組むが、いつも同じ言葉を使っている児童が多い。他の言い方を考えさせるなど、語彙を増やす指導を工夫していく。 |
| | 算数 | <p>調 全領域で目標値を大きく上回っていたが、4桁になった時の計算や時刻と時間の問題で正答率が低かった。</p> <p>学 学習内容への理解度は高いが、計算ミスや不注意によるミスをしてしまうことがある。</p> <p>学 意欲的に課題に取り組み、進んで発展問題にも取り組む児童も多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 簡単な計算で間違ったり、単位を付け忘れたりするなどのミスが見られる。 道具を使って丁寧に作図することが苦手な児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 復習用の問題を繰り返し指導する。 見直しを徹底するよう声をかける。 | <ul style="list-style-type: none"> 単元ごとに習熟度別のクラスを編成し、苦手なところを丁寧に学習することができている。 どの児童も基礎的な内容は理解しているが、定着が不十分な児童もいるので、家庭学習等を利用して繰り返し復習の機会を設けるようにする。 |
| 5 | 国語 | <p>調 目標値を上回っていたものの、得手不得手ははっきりと表れていた。漢字の書き取りが特に苦手である。</p> <p>学 文章を書くことに対して苦手意識は低く、意欲的に取り組むことができるが、段落相互の関係や、効果的な表現にまで意識が向かない児童が多い。</p> <p>学 読むことに対して、意欲的に取り組む。文中から根拠を見つけて読むこともできるようになってきている。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 漢字の送り仮名を正確に書くことを苦手にしている。 要点をまとめて書くことが苦手な児童が多い。 登場人物の心情などが直接表現されている部分は読み取れるが、そうでない表現になると読み取れないことがある。 | <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字の学習において、1度に学習する新出漢字の文字数を減らし、1文字ずつ丁寧に学習し、定着を図っていく。 週に2回、10分間作文を宿題として出し、文章を書く機会を増やしていくことで、表現力をさらに伸ばせるようにしていく。 ペア学習やグループ学習を通して、自分の考えを友達と共有する時間を設ける。 | <ul style="list-style-type: none"> 新出漢字を丁寧に練習する児童が増えてきた。今後は既習の漢字は文章の中で正確に使えるように指導していく。 書くことに対して抵抗のあった児童が減った。表現力も伸びてきており、今後も作文は継続して宿題としていく。 様々な学習形態で自分の考えを友達と共有することができるようになってきた。友達の考えのよいところを見つけられるようになったことで、自分自身の考えを見つめ直し、よいところを自分の考えに生かすことができるようになってきた。 |
| | 算数 | <p>調 問題によって目標値を下回るものがあった。角の大きさや垂直・平行などは条件に応じて描いたり、読みだりすることが苦手であった。</p> <p>学 学習内容を理解しているが単純な計算ミスをしてしまうことがある。</p> <p>学 授業に意欲的に取り組み、分からないことはそのままにせず、自ら質問に来たり、友達に聞いたり、最後まで諦めずに取り組もうとする意欲がある。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 繰り返しや繰り返しなど簡単な計算で間違っていることがある。 丁寧に作図することが苦手な児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 見直しを徹底するよう声をかける。 作図のポイントを明確にし、丁寧に作図することができるよう指導していく。 教科書の内容だけでなく、発展的な内容も授業の中に取り入れていく。 単元ごとにレディネステストを行うことで、児童の実態を把握し、より一層、習熟度別指導を推進する。 | <ul style="list-style-type: none"> 「児童生徒の学力向上を図るための調査」の結果から、基礎的・基本的な内容は多くの児童に定着していることが分かった。しかし、その中で、算数を特に苦手にしている児童がいることも同時に分かった。今後はさらに、習熟度別指導を効果的に行うためにも、発展的な内容を多く取り入れる。また、算数を苦手にしている児童には、ベーシックドリル診断テストなどの結果なども考慮に入れ、既習事項の振り返りも行いながら、学習内容の定着を図れるようにしていく。 |
| 6 | 国語 | <p>調 区の学力調査の結果は、全領域で目標値を上回っていた。「書くこと」の領域の値が他の領域に比べて伸びが少なかった。</p> <p>学 グループ学習により、問いをもちながら読み進めることができる。</p> <p>学 文字の形を正しく捉え、丁寧に字を書くことに課題が見られる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを書くことを苦手に感じている児童が多い。 どのように書けばよいのか分からない。 文を具体的に表現する語彙が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> 200字作文など、気軽に短時間で取り組む機会を増やしていく。 書く前に「文章の構成」を確認し、意識しながら書けるように指導する。 既習漢字の定着のため、丁寧に字を書くことを声掛けし、今後の指導を徹底していく。 | <ul style="list-style-type: none"> 今後も継続して文章を書く機会を増やしていく。 グループで「課題について自ら考えること」を重点的に指導した結果、学習問題について意欲的に考え追求し、解決できるようになってきた。今後もグループで話す活動を充実させる。 |
| | 算数 | <p>調 区の学力調査の結果は、全領域で目標値を上回っていた。「分数のたし算・ひき算」の単元の正答率の値が伸びが少なかった。</p> <p>学 学習内容は理解しているが、単純な計算ミスをしてしまうことがある。</p> <p>学 導いた答えについて、説明することにとっても意欲的である。学習の理解を更に深めることができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> 通分や約分で躓く児童が多く見られた。 繰り返し上がりや繰り返し下がり、小数や分数などの計算で間違っていることが多い。 | <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導をより一層充実させる。新しい単元に入る際はレディネステスト等を行い、習熟度のクラス編成に役立てる。 基本的な計算の復習を繰り返したり、練習問題を充実させたりする。 | <ul style="list-style-type: none"> 習熟度別指導が効果を上げている。今後は単元の内容によって、児童の得意、不得意があるのでそこも考慮に入れ、さらに習熟度別指導を推進させていく。 今後も習熟度別の練習問題に取り組み、基礎基本の定着や発展問題の取り組みを充実させていく。 全国学力学習状況調査の結果から、多くの児童に学習内容が定着していることが分かった。今後は課題のある児童の苦手分野を克服できるように指導体制を工夫していく。 |

| | | | | | |
|----|--|---|--|---|--|
| 音楽 | <p>学 言われたことや課題に対して、まじめに取り組む児童が多い。合奏が好きな児童が多く、器楽の練習に前向きに取り組むことができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・難易度の高い課題に取り組んだとき、すぐにあきらめてしまう児童がいる。 ・音楽表現を工夫することに対して、難しさを感じている児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態に合わせた授業の進め方を工夫する。また音楽活動の楽しさを体験させ、意欲を高め主体的に取り組むようにしていく。 ・音楽の表現について、児童の良い意見を共有し、鑑賞での学習を演奏に生かすようにしていく | <ul style="list-style-type: none"> ・音楽の表現について、考えて演奏することに意欲的に取り組み、表現にあった音を考えることができた。 ・意欲的に取り組めた学年と、消極的な学年とがあったので題材の工夫をしたい。継続することで力がつくので、今後も子供が考えを持ち、意見を発表できる雰囲気づくりを工夫していく。 | |
| 図工 | <p>学 どの学年も課題には前向きで、作ったり描いたりすることに楽しみながら取り組んでいる。また、他者の活動の様子や作品も興味をもって見るることができる児童も多い。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・形や色を通した造形的なものの見方や感じ方について、話したり聞いたりすることには興味をもっているが、発言する児童が限られている。 ・技巧的な面で思いを実現できなかったりする児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・生活の中の様々なものやことを、造形的な視点で見たり、感じたりできるような「問い」や、対話する場面などから、思いを広げ、考えたことを形や色で工夫して表したり、お互いを認め合ったりできる指導の工夫をする。 | <ul style="list-style-type: none"> ・継続して造形的な視点で見たり、感じたりできるような「問い」や、対話する場面などを意識して設定していく。製作への思いが持続しない児童が見られたので、活動過程で一斉指導をしたり、個別の支援などをしたりしていく。 | |
| 特支 | <p>学 多くの児童が周囲の人間と好意的に関わろうとし、自分の思いを言語化することができる。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・相手を意識して話を聞こうとする気持ちは育ってきている。話すことが好きで率先して発表しようとする児童も多い。しかし、友達の気もちに寄り添いお互いに話し合うことや、話し合いの円滑な運び方、話し合うときに主語や目的を加えて話すなどの文法表現は個別に支援をしていく必要がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・話を聞くとき、話すときのルールを日常的に意識付けながら対話力を高められるようにする。 ・相手の思いを受け止められるよう、必要に応じて教員が仲介して共有化を図る。 ・受容的な雰囲気をつくり情緒を安定させながら自己表現を促す。 ・グループ学習などで、主語や目的を加えて話す文法表現を練習していく。 | <ul style="list-style-type: none"> ・週に1回は週末の出来事を話すようにして、話す・聞くルールを意識付けるよう心がけた。会話の内容を聞き取った上で質問することはできつつあるが、依然、話した内容と同じことを質問することもあり、課題はある。よく聞き取れることを意識させたい。 ・発表している友達の内容を否定することや、自己表現できないなどのことがない。今後も継続して受容的な雰囲気をつくっていきたい。 | |

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト等から見える学習の状況

※分量は2 ページ以上となってもよい。